

## ロータリーを楽しみ、親睦を深めよう

国際ロータリー第2650地区  
2001～2002年度ガバナー

西村 二郎



2001～2002年度RYLAは皆様方のご協力により大変有意義で、活発な活動のうちに無事終了いたしました。今年度もあと1ヶ月となり、スペイン・バルセロナでの国際大会参加を残すのみとなりました。

「Mankind is our business - 人類が私たちの仕事」という大きなRIテーマのもとで、どれほどの成果が出せたものか判りませんが、私の1年間の仕事もいよいよ終章にさしかかっております。

直近の大きな活動はやはり地区大会の成功でありました。2002年4月27日、28日の両日、国立京都国際会館に於いて京都南ロータリークラブをホストクラブに、「人類への奉仕」をテーマにして開催されました。幸い好天に恵まれ、かつてない登録者3264名、招待者と友愛の広場の入場者をいれると3849名という大勢の参加者を得ました。

リチャード・D.King RI会長が会長代理に指名されたビチャイ・ラタクルRI会長エレクトをお迎えし、R財団トラスティー千宗室RI元理事、板橋敏雄RI理事、小谷隆一RI元理事、地区内外のPastガバナー、同期ガバナーにご出席いただき、夢と感動と「癒しの心」を共有することができました。

地区大会の成功は自分一人の力で成し得られるものではありません。「天の運」「時の運」「人の運」「地の運」すべての運に恵まれたお陰であり、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

ビチャイ・ラタクル次期RI会長は、我々アジア人の心を十分に理解し、すべてを包み込んでくれる大きな心の方でした。謙虚な中にも崇高なロータリー哲学を実践されており、真のロータリアンです。そのすてきな笑顔と気さくで飾らない性格、ウイットに富んだ話ぶりに接し、まさに感動の連続でした。

千宗室R財団トラスティーには、「ロータリーの未来とその在り方」と題する格調高い基調講演の中で、我々に的確な指針を与えていただき、小谷隆一RI元理事には新会員セミナーのリーダーとして大会を大いに盛り上げていただきました。

また、このような大きな大会をプログラム通りに見事に実行できたのは、ホストクラブである京都南ロータリークラブの多大なご尽力があつてのことです。ロータリアン一人ひとりが地区大会を立派に成功させようと一つにまとまり、ロータリアンのコミュニティーができあがったからです。ロータリアンの心と心のふれあい、結びつきが地区大会を成功へと導いてくれました。

今回の地区大会ではロータリアンの友情を再確認させられました。皆様への感謝と感動が私を癒し、成功させ、幸せにしてくれました。ロータリアンでよかったという思いで心が満たされました。参加された多くの皆様もロータリーへの意欲と何らかの満足感を、私とシェアしていただけたのではないかと確信しております。

この1年間、国際ロータリーのテーマに向かって、「癒しの心」で実践に努めてまいりましたが、これまでの皆様の“心ある行動”“心からの奉仕”に感謝申し上げます。

残りわずかとなりましたが、今一度振り返って悔いのない最終章となりますように、皆様方のご協力を切にお願いいたします。

ありがとうございました。



弱い。現代人は、仏教にあまり期待していないのではないか。お坊さんは葬式をしてもらえばいいと。人類の幸せのためにどうなっていくのかという時に、坊さんも余り期待されていないのではないかと、ひとりの僧として、反省しなければならないと思っています。

仏教というものは、宗教戦争にはむしろ縁が遠いものです。キリスト教とイスラム教には宗教戦争がある。仏教者としては、非暴力、不殺生は仏教の基本的な考え方ですから、戦争はしてはならないものなのです。難民、亡くなった人など、様々な場面を見ていると涙が出てきます。しかし現場にまで行くこともできず、はがゆさはあります。それをある場所で話したら、涙だけ流しとって駄目じゃないかと言われたことがあります。しかしその涙の中から、彼らに対する共感が生まれてきます。悲しみを共にすることです。

**岩佐** ロータリーに結びつけて、お伺いしたいのですが。

**ガバナー** ロータリーは寛容、善意、忍耐、慈悲の心で活動をと考えていますが、現在のロータリー活動には「癒しの心」も必要ではないかと考えています。

ロータリーも時代と共に変化することによって、また新しい感動が求められるのではないのでしょうか。そしてその感動がロータリアンを癒してくれるのではないかと思います。

**小谷** 癒しの心、思いやり、分別、大切なものです。現代ではそれがあまりにもどこかに忘れられているのではないか。その救いがロータリーであり、宗教ではないか。水谷先生にお尋ねしたいのですが、わかりやすい哲学を仏教がもっと広めていただけないものか。不熱心な仏教者であるからかわかりませんが、お坊さんのお経の意味が全くわからない。キリスト教などにくらべると。

**水谷** わかりやすくすると有り難くないという人もいて、大変むずかしい問題です。ガバナーが「癒し」とおっしゃった。素晴らしいことです。

物は豊かになっても心はどうか。物の豊か



4 なぜ私はロータリーなのか

さはわかります。物は計れますね。しかし、心の豊かさはどうして計りますか。目に見えない心を。計るメジャーがない。そこで私は、心やすらかにが大事ではないかと。それが癒しなのです。心を癒すことによって、心やすらかになる。仏教者がそれをしなければならぬのにと、一人の僧として反省しています。

**岩佐** 文明というものから、それぞれ職業人として21世紀はどういうふうに進んでいっていいのでしょうか。

**小谷** 経済第一主義ではいかん。新しい資本主義社会でなければならない。ハーバード大学のベラ教授をお呼びして石門心学の話をしたのですが、どうも江戸時代の中にあるのではないかと。設問を投げかけられたのですが、明確な解答が出せません。

突飛なお話ですが、エリートという言葉があります。ロータリアンはエリートかと言うと、エリートと言い切らなければならないし、エリート意識ももっとはっきりと持たなければならない。人間は平等だからエリートは存在しないと言う人もいますが、エリートは偉いというのではなく、責任を負わされている人で、その責任は謙虚であり誠実です。自分の周囲を見渡し、足許を照らし直し、人間のあるべき姿を確認する。これが21世紀の第一歩ではないかと思えます。

**ガバナー** 全くその通りだと思います。ロータリアンは謙虚な気持ちと誇りを持たねばなりません。

**水谷** エリート、まさに謙虚で人生のすべてに責任を持って。宗教家の基本だと思う。大事なことは我執です。我利我欲、これをなくすることが仏教家のあり方です。仏教者で我利我欲の強い人が増えています。私を含めて、人のことは言えません。自己反省をしています。

経済人は営利を求めます。これは当然です。人が幸せになることなのです。しかし、正当な営利欲でなければならない。お坊さんは営利欲を持つこともいけない。世界から貧困をなくすることが、21世紀の課題ではないかと思えます。

**岩佐** 経済人として、小谷さんはどうお考えですか。

**小谷** 小泉内閣のもとで構造改革、これは大変なことで革命のようなものですが、経済人の足許が洗われなければ本当によくないと思います。これを成し遂げなければ、21世紀はこなしきれない世の中になるのではないかと思えます。

**岩佐** 幸せとは、一体になのでしょうか。

**ガバナー** 相手の喜びを共に分かち合うこと。相

手の悲しみ、痛みを共に分かち合うこと。これが幸せではないでしょうか。

**水谷** 西村ガバナーの幸せ、私は私の幸せがある。小谷さんも、岩佐さんにも幸せが。幸せは皆違うと思うのです。幸せは本人が思うことであって、私が幸せであると思うことが幸せなのです。たとえば、物は足りて立派な家に住んで、美味しいものを食べて、何不足ない生活をしていても、ぶつぶつ不平を言う人もいる。家族に恵まれず、ひとり暮らしをしているおばあさん。あまりいい生活をしていないように見える。しかしおばあさんは、大変幸せであると言う。要は、本人の主観です。

**岩佐** WCSミッションでミャンマーに行ってきた。所得からいえば日本の20分の1しかない、未発達な所です。しかし、子供達の目はきらきらと輝いています。それが幸せではないか。いや、本当に幸せそうです。物質的な文明、精神的な文明...。幸せはどこにあるのかなあと思いながら帰ってきました。



**水谷** すこやかで健康であることが一番。さわやかなこと、豊かなこと。もっと大事なことは、苦しい時、困った時に、将来に希望と喜びを持つことが幸せではないか。

**ガバナー** 私は60歳を過ぎてから医療に対する考え方が変わってきました。医療は人間らしい自然の死を助けるものだと思うようになりました。温かい心に裏打ちされた品位ある医療、つまり節度ある医療が求められ、それが「美しい死」を迎えることになります。高度医療に支えられている医療が、果たして心の医療に相通じるものがあるかどうか。

私は5年前に母と別れました。母は枕元の私たちの手を握り、小さな声で「ありがとう」と言って昏睡状態に陥りました。それから1週間後に突然目を開け、帰国した娘の顔を確かめ、握りしめた手に力を入れました。側にいた者たち一人ひとりに目を配り、うっすらと目を潤ませ、そして静かな死を迎えました。私の持論である「美しく送ること」を図らずも母の死を持って体験し、終末医療はこれでよいのだと実感しました。21世紀はより精神文明が求められると思っています。

**水谷** 20世紀に物質文明に欲望を持つことに限界がある。足るを知るとのこと。これでいいんだという気持です。

**小谷** 「百花誰がために開く」の色紙を頂戴しました。花は人を喜ばすために、人間の目を楽しませるために咲いているのではない。鳥は空を飛びながら自慢しているわけでもない。大変好きになった言葉です。

21世紀は、精神的な問題を強く出していると思いますが、花の無心の心、誇りをもっているためでもない、誰を喜ばすものでもない、ともかく何かをやらなければならないからやっているんだという気持が、新しい人間の中に出てこなければいけないのではないかと思います。

**水谷** おっしゃる通りです。21世紀は共生の時代です。お互いに、共に生きていきましょう。

**岩佐** 終りに、一言ずつお願いします。

**ガバナー** 21世紀は「心の時代」とも言われていますが、ロータリーも精神面に重きを置いて活動していきたいと思います。

**小谷** 地区大会の会長代理で長野県の善光寺に行ったことがあります。横額をいただきました。「忘己利他」という言葉です。毎日それを見ながら生活をしています。

最近、論語から「徳は孤ならず。必ず隣あり」という言葉を知りました。徳は、ひとりだけのものではない。寂しいものではない。修練を積んでいけば、必ずそれ以上に、あなたと一緒にやろうと隣人がやってくる。ロータリーが実行するには、そうした考えを持たなければならない。自分だけやっているだけだと、ともすれば考えますが、安心しなさい、あなたのためには、同じ考えを持った人がおられる。この二つの言葉を結びつけたいと思います。

**水谷** 物質文明は人を幸せにはしない。求める人は多いですが、必ず失望します。ロータリーの理念は、仏教の精神によく似ていると思います。

**岩佐** 皆様にはお忙しいなかご対談をいただき、よいお話を頂戴いたしましてありがとうございました。



## 強力な同志を！ 2001 - 2002年度地区大会に参加して



第2550地区パストガバナー、R.I.理事 板橋 敏雄（足利東RC）

この度RI会長代理ビチャイ・ラタクル会長エレクトのお供をして、私が以前から、最も古くしかも最も新しい地区として尊敬していた貴地区大会に参加をさせて頂き、全ての大会プログラムを通じて、より一層深く啓発されましたことを衷心より感謝申し上げます。

1928年にポール・ハリスが書かれた「ロータリーの創始者」のなかに私の大好きな言葉があります。「ロータリーは、今後、華々しく開花するに相違ありません。僅かな年月で、43ヶ国に広がった運動は、あらゆる国に広がるまで、波のように押し寄せる運命を辿るに違いありません。全ての国に広がった時が、その広がった地域を力強く耕す時なのです。なすべきことは何時でも十分にあります。人類を向上させる運動の倫理的概念だけが、全てを包み込む概念です。ロータリーは、全ての人の生活に影響を与える運動となるまで、自己満足しては成りません。」という言葉です。

古い伝統に支えられた貴地区が、何時もロータリー財団への寄付においても、また財団プログラムへの積極的な参加においても、常に先頭を切っておられる姿は、正にこのポール・ハリスの74年前の言葉を実践している姿なのです。私は、会長・幹事・地区委員長会議の中で、各委員長様の報告を伺い、最近、ミャンマー訪問の参加者の感動が、更に世界地域社会を耕す運動として、展開していくことを確信致しました。

会長代理様の御講話の中で、特に感動を受けたことを申し上げたいと思います。先ず第一に、ロータリーを前進させるのは、RIでもRI会長でも、RI理事でも、地区ガバナーでもなく、各クラブ会長が率いるロータリアンである。従って上からの押し付けではなく、グラスルーツのクラブ会員の創意とやる気を引き出すことだと強調されました。そのためにロータリーの指導者は、「一般の人々」の前に立ってバトンを振るのではなくて、羊飼いさながら、互いに協力し合い、時には群れの中にはいり、また回りを歩いたりしなければならぬと諭されました。

第二には、最近のロータリークラブにおいて、職業奉仕の重要性が忘れかけていることへの警鐘を鳴らされた点であります。我々は、絶えずロータリーの職業的成長を、この職業奉仕の実践により育てていることを忘れてはなりません。それは全ての価値ある職業を尊重するように我々に仕向け、最高の倫理基準を遂行することを我々に期待し、職業を通じていかにして地域社会に奉仕するかを教えるものだからです。「最も良く奉仕するもの、最も良く報いられる」というモットーが一時我々の用語から消えたが、再び取り戻すことができたのは、嬉しい限りだと結ばれました。地域を耕すための会員を増やす努力と共に、その人を一日も早く我々の強力な同志に仕立て上げるための親睦と奉仕を、いかに日常のものとしていくかを強く意識付けられた二日間でした。限りない感謝を述べて印象記とさせていただきます。



## 新しいロータリー活動を目指して

93番目のクラブとして **京都平安ロータリークラブ** 設立なる

ガバナー特別代表 **澤田 昭三** (京都西北RC)

京都西北RCのスポンサーにより、4月22日(月)京都平安RCの創立総会が、西村ガバナーご出席のもと、ザ・パレスサイドホテルに於て開催された。

我が国2312番目、第2650地区93番目、京都市内23番目のクラブとして発足した。総会は地区拡大諮問委員の山田パストガバナー始め、吾郷地区拡大委員長、パストガバナー、地区役員、賛西会京都西RC外、4RCの会長幹事、WCSより米国ペンシルベニア第7350地区のパストガバナー外3名のロータリアン、京都西北RCより25名、京都平安RCの創立会員37名の出席のもと盛大裡に挙行された。

ガバナー特別代表の点鐘に始まり、開会挨拶、創立経過報告、創立会員の紹介、西村ガバナーの式辞、山田パストガバナー、吾郷拡大委員長、京都西RC石原会長、各位よりご丁寧なる祝辞を頂いた。京都平安RC初代会長西村伊久夫より、「新しいロータリー活動を目指して」と会長方針を発表し、謝辞をのべた。

祝宴は、津田パストガバナーの乾杯に始まり、終始和気藹々におわり、21世紀の新しいクラブとしてここに出帆した。

例会場は、ザ・パレスサイドホテル、例会日 月曜18:30~19:30です。

認証状伝達式が、6月9日(日)国立京都国際会館に於て、16時より開催されました。

ご報告は次の機会に致します。今後共よろしく、ご支援の程お願い申し上げます。



### 京都平安RC チャーターメンバーを紹介します

#### 京都平安RC (37名)

名前	職業	名前	職業
新井元道	不動産賃貸	村林俊治	建築設計
陳振徳	貿易商	村岸弘之	金銀系製造
藤野記子	美術織物商	中野敏行	ITコンサルタント
魏信豊	創作中華料理	浪花健三	税理士
韓昌祐	文化団体役員	西村伊久夫	不動産貸付
早瀬茂樹	省力化機器製造	麻植久美子	婚礼衣裳
市田均	生命保険	大橋智夫	音環境及び水琴窟プロデューサー
井上隆司	司法書士	岡本繁夫	帯地製造
岩本美記代	テナント業	佐伯保美	運送業
門脇光禅	幼稚園	島部忠司	社会保険労務士
神崎哲	一般弁護士	塩見健浩	食品加工
柏木久雄	私立学校	曾根清	私立学校
河津英樹	つづれ織製造	多賀裕展	鍼灸・接骨院
小平真滋郎	西陣織物製造	武田淳一	中国料理
松井在河	病院経営	多根井文男	医療用具製造販売
松尾二郎	繊維製品販売	寺嶋繁久	確認検査機関
松岡俊介	構造物診断	山本正道	ホテル経営
松山裕教	総合建築	吉岡恵	金属加工
宮口順生	仏教(浄土)		

## 三巴のクラブとして飛躍 京都洛西ローターアクトクラブ認証状伝達式挙行さる

5月11日(土)国立京都国際会館に於き、認証状伝達式並びに祝宴が執り行われました。

会場では、京都洛西ロータークラブの茶道同好会の方々による呈茶のご接待で迎えられ、式典に於きましては、西村ガバナーを始めとする御来賓のロータリアンの方々の激励の言葉、山下地区ローターアクト代表からは、これからともに活動していく仲間としての心温まる言葉が、新ローターアクトとなった京都洛西ローターアクトクラブ会員にかけられ、チャーターメンバーたちは設立総会時以上に心が引き締められ、また勇気付けられたことと思います。

祝宴は、ロータリー財団奨学生でもあった山本訓仁子会員のピアノ演奏で迎えられ、金田昌子会員のメゾソプラノの独唱も加わり、心和み温かい雰囲気が始まりました。坂部バスターガバナーからの激励のお言葉を頂いたあと、乾杯ご発声とともに祝宴も盛り上がり、京都洛西ローターアクトクラブ会員によりますアトラクションもあり、親睦を深めあい楽しいひとときを過ごすことができました。

今回の認証状伝達式に於いて、設立総会以上に、大野暉八郎会長、古川浩二実行委員長を始めとする京都洛西ロータークラブ会員の皆様方の新アクトに対する愛情や期待、また伊藤愛会長以下25名のチャーターメンバーのさらなる意識の向上を感じることができた式典であったと思います。

京都洛西ロータークラブにおかれましては、次年度20周年を迎えられます。すでに提唱しておられます花園高等学校インターアクトクラブ、そして今回提唱されました京都洛西ローターアクトクラブと、三巴のクラブとなって大きく飛躍され、さらなる活躍をされることを期待致します。



感謝状贈呈



アトラクション“手品班”



認証状伝達式



坂部バスターガバナー乾杯

最後にメンバー全員で...



**伝統のクラブとして...未来へ****創立45周年を迎えて**

檀原ロータリークラブ 会長 久保 伊一

今年45歳となる吾が檀原ロータリークラブの成長過程に思いをめぐらしますと、檀原ロータリークラブは、奈良ロータリークラブの創立5周年記念事業として計画され、昭和32年4月、国際ロータリーの認証状受理にこぎつけ、奈良県下第2番目のロータリークラブとして誕生しました。その後、数々の創業の苦難をのりこえ、年々その組織を整備、拡充されてまいりました。

昭和33年には奈良クラブと協力して五條クラブを、昭和36年には大和高田クラブを、昭和50年には桜井クラブを、そして更に平成3年には檀原中央クラブを創立35周年記念事業の一環として創立しました。先輩各位にお聞きしますと、新クラブ設立の陰には、新クラブの中核として移籍された同僚会員とのつらい別れがあったとのこと。また創立5周年の昭和36年に、県下初のインターアクトクラブを檀原学院高校に、創立25周年には、檀原ローターアクトクラブを設立し、それぞれ今日成長、発展し、青少年活動の輪を広げてまいりました。

当日の式典には柿本奈良県知事、安曾田檀原市長始め、西村二郎ガバナー、他多数のご来賓のご出席を賜りました。パストガバナー堀場雅夫様の「21世紀の夢」と題した記念講演をいただき、時代に合ったお話と、現代我々ロータリアンのあり方についてもふれていただき非常に好評を博しました。

現今の経済下、記念例会、事業、式典祝宴、記念誌、各担当委員の方々が、最少の経費で最大の効果を上げるべく努力され、お陰をもち檀原市に、車椅子搭載用の福祉車2台を寄贈することができ深謝いたします。

**おかげさまで****創立25周年を迎えて**

高島ロータリークラブ 会長 小崎 博保

湖の西、比良の北、山紫水明、歴史的に由緒もあり、近江聖人ゆかりの高島に、大津西ロータリークラブの献身的なご努力とご指導により、呱呱の声を上げて25年、5月15日(水)西村ガバナーはじめ多数のご来賓をお迎えして、25周年記念式典を挙行することができました。

今年は日韓両国でサッカーワールド大会が開催される年、永年高島郡の少年サッカーチーム育成に努めてきたこともあり、奇しくも我がクラブ25周年にあたり、記念事業として、釜山韓日文化交流協会のお世話により、少年サッカーチームを保護者と共に韓国へ派遣して交歓試合を実施、成功裡に終了することができました。

記念式典では、毎年続けられている釜山光復ロータリークラブと、当クラブとの民間レベル、草の根交流のホームステイで、十数年前、来日された金緒珍さんと韓国へ渡った西川晶晃くんの体験発表『日韓交流の想い』は、聴衆に多大の感銘を与えました。



親睦会は、勇壮な安曇川ふじ太鼓の綺麗どころの演奏で幕が開かれ、ロータリーの親睦の輪が広げられ、素晴らしい記念式典と祝賀会を終わることができました。

この記念式典の様子は、その夜のBBC(びわこ放送)のニュースで放映されました。



## 二橋貞雄パスト・ガバナーを偲んで

第2650地区パストガバナー 坂部 慶夫 (京都洛中RC)

ご生前数え切れない程のご厚情、ご指導を受けた者として、色々と思いはあるが、パスト・ガバナー同志としての交わりは、お互いに忙しいこともあって、案外、事務的な打合せや、会議の時に顔を合わせるだけのことが多く、私的なお交わりは殆ど無かったといってもよいことは、当事者になられた方は、よくお分かり戴けると思う。しかし、やはり、私にとっては敬愛する、大切な先輩ガバナーであった。

みなさまもお認めになるように、二橋様は温厚、誠実、いつも笑顔で人に接する方であった。私には、二橋様は何でも相談申し上げることのできる兄貴分のような方であった。私がガバナー・ノミネーに指名されて、右も左も分からず、心細い思いに満たされていた時にも、私の幹事長予定者、平井義久君と共に懇切丁寧にお教を賜り、何時も最後に励ましの言葉を賜ったものであった。平井君と共に力を与えられて帰路に着いたことが度々あったことも、今となっては只々感謝の思い出になってしまった。

二橋パスト・ガバナーは、ご自分のガバナー事務所の幹事長様を始め、全てのスタッフを動員して、大切な資料をお見せ下さったり、貸与して下さいましたが、それ等がどれほど私たちの参考になり、力になったかは、言葉では言い尽くせない程である。

ガバナー、パスト・ガバナー、諮問委員としてのご功績も多くある。特筆すべきは、わが2650地区で、ポリオ・プラスのワクチン投与のために、チームを結成して、カンボジアに出掛けられたことであろう。今でこそR.I.の指導もあって、我が地区は毎年の如く東南アジアの国々へミッション・グループを送るといふ素晴らしい奉仕事業を続けているが、それらの嚆矢として、未だ一般的に関心の薄かった頃に、奉仕活動を実施されたのである。数年前のある諮問委員会で何かの時に「我が諮問委員会の委員は、不思議に長生きをする人が多い」と言われたことがあったが、そのご本人が早逝してしまわれた。誠に残念であり、我が地区にとっても大きな損失であると言わざるを得ない。立派なご尊父が良きロータリアンであったこともあって、根っからの素晴らしいロータリアンであられた。今は、天にあって安らかな眠りについておられると信じている。ご遺族、特に内助の功厚く、地区大会その他の会合にもご出席賜り、ご協力して下さいたご令室様の上に平安をお祈り申し上げて、私の思い出と感謝の言葉とする。



ワクチン投与されるありし日の二橋パストガバナー

### 文庫通信 クラブ新委員長さんへ

- |                                            |                                    |
|--------------------------------------------|------------------------------------|
| 「21世紀のロータリーについて」                           | 深川純一 2001 6頁 (D.2700地区大会講演)        |
| 「素直にほめあう心」                                 | 神戸須磨R.C. 1978 16頁                  |
| 「アイデアの誕生 職業奉仕はいかにして生まれたか」                  | チェスリー R.ペリー 2001 3頁 (ロータリーの友)      |
| 「千住スプリングラー岩手県東山工場見学会」                      | 東京臨海R.C. 2002 48頁 (D.2580職業奉仕委員会)  |
| 「ロータリー地域社会共同体 (RCC) RCCのいろは」               | [R.I.] - - 5頁                      |
| 「中国青少年の主張」                                 | D.2780 2002 4頁 (申込先 D2780)         |
| 「外交とクラブを結ぶプログラム」                           | D.2710 2000 2頁 (D.2710月信)          |
| 「奉仕活動と資金調達は車の両輪」                           | 南園義一 2001 2頁 (ロータリーの友)             |
| 「ロータリー財団への寄付金の行方」                          | 田中作次 1999 1頁 (D.2710月信)            |
| 「ワークブック2001」                               | 米山記念奨学会 2001 17頁 (申込先 米山記念奨学会)     |
| 「新世代・・・心の絆を育てよう」                           | 多胡 輝 2001 14頁 (D.2580 IM基調講演)      |
| 「新世紀の夢の扉を開けるため「愛知の心」で省みて一人ひとりの心に奉仕の炎を点すこと」 | 山崎時雄 2000 2頁 (D.2650月信)            |
| 「ロータリーのあらまし」                               | D.2780 2002 8頁 新会員のために (申込先 D2780) |

[ 申込先：ロータリー文庫 ]

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館7階 TEL (03) 3433-6456・FAX (03) 3459-7506  
http://www.rotary-bunko.gr.jp

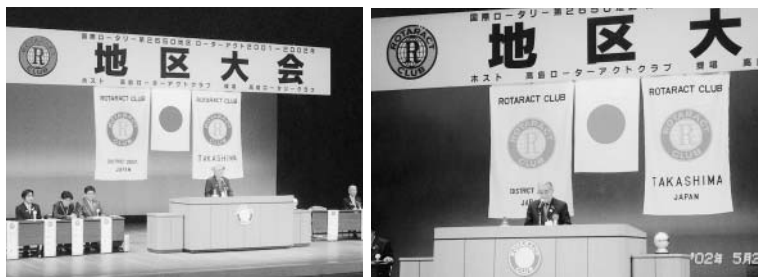
## 最優秀ガバナー賞 福知山RAC 軌跡～たどってきた道みつめて～ ローターアクト地区大会

地区ローターアクト委員会 委員長 **長崎 一幸** (舞鶴東R C)

湖と緑に育まれた静かな町、高島の地において、RI第2650地区、2001～2002年度、ローターアクト地区大会が、西村二郎ガバナー、そして、多くのロータリアン、地区内外からOB、OG、アクターが一同に会して開催されました。5月25日(土)の前夜祭は、今津サンブリッジホテルに於いてこの一年を思い起し大いに語り、またOB、OGは再開を楽しみ、和やかな懇親の場がもたれました。

26日(日)、今津文化会館に移された本大会においては、山下地区代表の集大成とも言える式典が行われ、それぞれのクラブからエントリーがあり、各賞の表彰式が執り行われました。最優秀ガバナー賞に福知山RACの軌跡～たどってきた道みつめて～を、ガバナー賞は檀原・京都東・京都紫野の各RACが受賞されました。

この表彰式は、改めてアクト活動への意欲を掻き立てるものであり、これからのアクト活動への指針となるでしょう。今大会は、山下地区代表の今年度のテーマ「明日へ」が大きく輝き、この不透明な時代を払拭してくれるような明るさと、次代を担う若者の英気溢れる大会であったと思います。ロータリーがアクトを提唱続ける限り、次代を担うリーダーはしっかりと育ってくれと確信致しました。そして、次年度地区代表宮脇君が、しっかりと受止め、伝えてくれるでしょう。



## 夢と希望と行動で心豊かな癒しの時代をライラ開催される

地区青少年委員会 委員長 **森定 秀夫** (京都西北R C)

古い歴史を誇り関西文化学術研究都市、京田辺市にて新緑のすがすがしい5月17日(金)から2泊3日の日程で開催されました。久村哲京田辺市長、田辺宗一休寺住職、基調講演を頂きました西村二郎ガバナーをはじめ、岡村ガバナーエレクト、福井ガバナーノミニ、地区役員、地区93クラブの青少年委員長様にご支援を受けて、開催することができました。

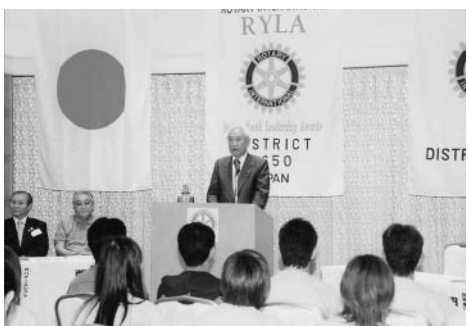
このRYLAの目的は「若い人々の指導者及び善良な市民としての資質を伸ばす」ことにあり、特に(地域社会の市民であるということ、世界社会の市民であるということ)を認識し、あわせて青少年による青少年への力強い指導を奨励することを目標に、世界各地で数千人がこのプログラムに参加しています。

今年度のRYLAは参加受講生106名、米山奨学生9名、ローターアクト19名、ロータリアン104名、役員29名の合計267名で開催いたしました。

毎年、講演中心でありましたが、野外でのボランティアを兼ねた企画を取り入れました。受講生がお互いに出会いの場でいかに早く打ち解けあうチャンスを作るためにウォークラリーを実施致しました。そのウォークラリーの目的は事実を正しく捉えること、トラブルを解決する能力、また自分なりの信念を持つこと、またボランティアを兼ねた地球環境のあり方等々を体験することでした。

2日目には、3人の講師をお招きいたしました。形成外科医でもあります、葉室頼昭奈良春日大社宮司に「素晴らしい日本人の人生観」、京都市立伏見工業高等学校ラグビー部総監督、山口良治京都市スポーツ政策監に「熱き感動を求めて」という講演を頂き、講演のなかで提起される問題について、受講生一人一人の意見をディスカッションして各班の全体の意見として集約し、それを発表することが中心でした。

お茶の心、茶道体験をさせて頂くために、本間宗壽様に指導していただき、若者に最近、軽視されが



ちな道徳心や礼儀作法を色々な面で体験して頂き、本当に勉強になったと思います。

その他、ミニコンサートを聞き、チームTシャツ作りや班別寸劇企画して素晴らしいものができました。

## 「ボトムアップ」の活動を！

2002 - 2003年度地区協議会・第1回合同地区委員会開催される

次年度大会集会幹事 寺田 康宏 (奈良RC)

青葉の美しい5月12日(日)地区協議会、第1回合同地区委員会を 奈良百年会館を中心に開催。同時開催するという西村二郎ガバナーの御英断を、岡村吾郎ガバナーエレクトが尊重された。

地区委員会別協議会に引き続き、地区内93クラブの会長・幹事・委員長・地区委員の分科会を開催。各担当諮問委員の御指導の元に次年度の活動方針についての熱心な勉強会がもたれた。

地区協議会・第1回合同地区委員会本会議を、西村ガバナー御指導の元に開始。ガバナー挨拶に続き、岡村ガバナーエレクトが新しい年度に向かってB・ラタクル次年度R.I.会長がアナハイムで発表された「慈愛の種を播きましょう」のテーマに沿って次年度に対する抱負を力強く述べられ、特に会員増強、ポリオ撲滅、教育問題等、熱っぽく語られた。堀場パストガバナーの基調講演は「リストラクチャリング」という演題で、時代のニーズにあった素晴らしい内容の御講演だった。



第2部は地区委員長21名が、次年度の方針を発表され、西村ガバナーより各委員会について適切な御講評をいただき、「トップダウン」でなく「ボトムアップ」をしていきましょうと結ばれた。最後に西村ガバナーと、岡村ガバナーエレクトとのバッチ交換が厳粛に行われ、会議は盛会裡に終了。同時開催のため分科会の会場が分散されご不便をお掛けし、ご不満な点多くありましたことと思っておりますがお許し下さい。皆様の御協力に感謝申し上げます。



## 笑顔と握手のぬくもり

R.I.D.6910 地区GSE に参加して

派遣団長 GSE委員会 委員 正村 嘉規 (彦根RC)

4月6日(土)午後10時、アトランタに到着。ロータリアンのあたたかい歓迎の笑顔胸いっぱいいただき、16時間の長旅の疲れもふっとび、元気にジョージアへの第1歩を踏み出しました。

6910地区は、アトランタ市周辺のロータリークラブによって構成され、私たちはジョージア州での滞在30日間、アトランタ市から約1~3時間の距離にある8ロータリークラブのあたたかいホスト・ファミリーのお世話をいただき、12ロータリークラブ(モーニング例会2回)の例会に出席させていただく機会を得ました。

私達の目的である、個人、個人のボケーショナル・アクティビティは、私達の健康管理を十分に配慮した、細部にわたる計画によって支えていただき、たどたどしい英語力ではありますが、目、口、手、足と、あらゆる五感をいかしてがんばり、参加者全員が言語・文化習慣の壁を乗り越えて、職業研修と友情の輪を深めることができました。



アトランタ市から560km(車で約8時間)離れた、フロリダ州・パナマ市で開催されました地区大会における私たちの英語と映像によるプレゼンテーションには、ロータリアン全員総立ちであたたかい賞賛の拍手をいただき、感激と感動をおぼえ、キングRI会長のあたたかい笑顔と握手のぬくもりをわすれることはできません。40日間、何の事故

もなく、全員が元気に本当に充実した気持ちで帰国できましたことは、地区ロータリアン全員のご支援と、6910地区ロータリアン、さらにはご家族、ジョージア州の多くの市民のあたたかいご協力の賜物と、改めて皆様に感謝のお礼を申し上げます。



元気で帰国した派遣団

## ガバナー表敬訪問

2002年5月10日(金) 福井あじさいロータリークラブ



会長 富田正通・幹事 淡島 洋

創立6ヶ月、新緑の季節にぴったりの若々しいクラブ。ロータリーに対する熱い思いと意欲に満ちた女性会員6名を含む56名のメンバー。富田会長、淡島幹事の見事なリーダーシップと、黒川誠一特別代表及びスポンサークラブ福井RCのきめ細やかなご指導ぶりを目の当たりにし、未来の発展を確認しました。  
(阿閉嘉美 記)

2002年5月20日(月) 京都平安ロータリークラブ



会長 西村伊久夫・幹事 山本正道

チャーターナイトを3週間後に控えた公式訪問でしたが、澤田昭三特別代表のすばらしいご指導、西村会長、山本幹事の新クラブ創立のポリシーが、チャーターメンバーに理解され、新しいクラブとしての活力と意欲のある発言に、西村ガバナーも感心され、充実したクラブづくりを期待されました。  
(阿閉嘉美 記)

## プロ並みのハーモニー 第8回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭

実行委員長 田中 文夫(福井南RC)

5月25日(土) 西村二郎ガバナーを大会長に、福井南RCがホスト、福井フェニックスRCがコ・ホストとして、北は函館、南は別府と総チーム21、ロータリークラブ総合合唱者400数名、その他地域の方々を含め1,000名という大きな合唱祭になりました。

当地区では、京都洛中RCからは男性合唱の「洛中グリークラブ」、女性合唱の「それいゆ」の2チーム、京都西北RCは「リッペンコール」、京都伏見RCの混声合唱「こーる はんなり」、今年結成の檀原中央RC「ゼンガーフロイント」、びわ湖八幡RCの混声合唱の「ニオの声」、ハープ伴奏の福井東RC「福井東男性合唱団」、福井フェニックスRCは女性合唱の「マダムフェニックス」、当福井南RCは「ダンディ合唱団」と9チームが参加致しました。

歌うことを趣味とした方々が楽しみにしての1年間、練習してきた成果を発表しました。本当にプロ並みのチームや、我々のように親睦を中心として健康のために、ボケ防止のため、いい歌を歌い継ぐため、ロータリーの退会防止のためのクラブも、全て和気藹々に全クラブがすべて賞を頂き、夕方からの親睦会には、それぞれのお国自慢の歌や踊りと一日中楽しく親睦を図りました。

次年度、広島での再開を約束して散会致しました。



## 地区大会おほめをいただいて クラブ週報から

### 従来の慣習を改めて そこにロータリーの進歩がある

福知山西南RC週報から

本年度の地区大会は、さる4月28日に国立京都国際会館において開催された。当クラブからは太平楼さんの車をお借りして20名が参加した。

RI会長代理には次年度RI会長のタイのピチャイ・ラタクル氏が出席された。タイ国の副首相を勤められた方で、大変穏やかでユーモアのある方で、今大会を盛り上げて下さった。

今年度は随所に従来の慣習を改善された工夫が目立った。中でも初めて大会を一日にまとめられた事は、永年できなかつただけに好評であった。またコーヒー・ジュースが従来無料であったものが200円と有料になったこともよかったと思う。

ただ昼食が例年より500円は質素になっていたことは疑問視されるのではないかと。参加者3200名は会場の規模からみて適当だったように思う。連休の真っ最中の大会であったので、各地からの参加者は交通に苦労されたのではないだろうか。

来年は世界大会が2年後大阪で開催されるので、4月に次年度の大会があり、11月に次々年度の大会があることになった。大会終了後、太平楼さんにて夕食会を催し散会した。

尚、回淵和治君が世界社会奉仕の活動に対して、ロータリー財団地区奉仕賞を受賞されました。

### 今後のモデルとして

八日市南RC週報から

一昨日の地区大会には朝早くからご苦労さまでした。今回の大会は、時間と費用を出来るだけ節約するという基本姿勢で計画・実行され、その趣旨が十分に生かされていたように思います。

青少年シンポジウムの山折哲雄氏は文化人類学、特に宗教哲学の専門家で、以前より著書など氏の仕事に関心を持っていました。しかし、今まで講演を聴く機会はありませんでしたので、ぜひこの機会にと思っておりました。結果皆さんに最後まで残ってもらうことになり、迷惑をかけた方もあったのではないかと思います。しかし、講演は素晴らしく、氏の人柄を彷彿とさせる語り口で期待を裏切らないものでした。「如何にグローバル化が進み、日本人の行動が変わろうとも、その心の深層には何百年と続いてきた日本の文化が、宗教を基にした文化が脈々と生きていること、またグローバル化が進めば進むほど、ますますその民族の辿ってきた歴史と文化・文明の存在を認め共存を図ることが重要となる、そこから未来が始まるのではないかと」と講演の趣旨を理解しました。皆さんは、どのように捉えられたのでしょうか。

来年度の地区大会は奈良市で4月4、5日に行われます。新しく企画された今回の地区大会は、今後のモデルになるのではないかと思います。何はともあれ、ご苦労さまでした。

#### 4月 ポールハリスフェローになられた方

峰山	足立 明					
京都モーニング	鈴木 正弓					
京都山科	天野 公朗					

#### 4月 マルチプルポールハリスフェローになられた方とその回数

武生	山口 迪生					
大津西	伊藤 孝夫					
	猪股 富一	金子 憲司	細川 清司	伊藤 禎雄	野呂 清実	
京都	菅原 政夫					
京都東	高田 保秀					
京都モーニング	中坊 四郎					
生駒	中谷 壽市					

## 国際親善大使として 財団奨学生選考される

地区財団奨学金・財団学友委員会 委員長 **中野 種樹** (京都西山RC)

2003～2004年度、R財団国際親善奨学金受領予定者選考試験が5月18日(土)京都商工会議所にて行われ、43名の申請が当日までに4名が辞退、実際に受験したのは39名でした。

合格者数の枠は20名で、財団寄付額によって4府県の合格割り当てを、福井3名、滋賀4～5名、京都9～10名、奈良3名とし、滋賀と京都については、滋賀の5位と京都の10位の点数を比べ、上位を合格としました。選考は論文と面接の合計点の高い順に合格となりますが、本奨学金の目的が国際親善にあることから、国際親善大使としての語学力が前提条件となります。従って、面接と論文で20位以内に入っているにもかかわらず、語学が不合格のため選考されないケースも珍しくありません。

6月15日には合格者を対象に研修会を行います。同日午後には、昨年選考された奨学生が最終のオリエンテーションを兼ね、留学先の言語でスピーチを行い、1月から2月にかけて、財団からの教育機関指定がされる予定です。奨学金受領予定者は、3回のオリエンテーションや地区大会の参加等を通して、2003年7月以降の出発まで留学の準備をします。

### ロータリー財団国際親善奨学生選考試験 合格者

推薦クラブ	申請者名	推薦クラブ	申請者名
福井	中田 陽子	京都市陽	妹尾 哲志
福井	堀江佳代子	京都北	岩崎 敦子
若狭	池田 丈佑	京都西	山本 尚美
平城京	斉藤 理恵	京都西	小林 志保
奈良	木村 幸子	京都洛南	田辺 加恵
大和高田	片山 淳子	京都西北	小西紀美子
草津	今道 晴彦	京都西南	松田 美緒
水口	和喜美穂子	京都紫竹	桐村 一美
大津西	佐藤 尚平	京都紫竹	田中 玲奈
野洲	樋口 崇	宇治	近藤 史子

#### 補欠合格

京都	青木 滋之
京都北東	桐谷 祐一
橿原中央	井野口郁子

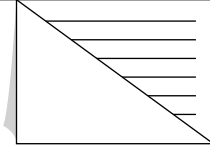
## ..... 記念チャリティーコンサート ..... 財団奨学生派遣50周年

6月2日(日) 財団奨学生派遣50周年記念チャリティーコンサートが京都コンサートホールにて開催され、ロータリアン、学友、家族、友人の方々に会場はほぼ埋め尽くされました。西村ガバナーのご挨拶で開演、財団学友10名によるピアノ、フルート、ヴァイオリン、声楽による素晴らしい演奏は会場聴衆を魅了。最後は、出演者全員と観客が「ふるさと」を合唱、舞台と聴衆が一体になった感動的なエンディングとなりました。財団奨学生の奉仕の心に満ちたコンサートに皆さんが萬感胸に迫るものを感じました。そのせいか、帰り際にもチャリティーBOXに千円札を入れて帰るかたがたが多く、ほぼ目標額を達成することができました。

会場にはチャリティーの送り先である、国連難民高等弁務官事務所を支援しているNPO法人日本国連HCR協会より、山本浩常務理事が来られ、ステージで西村ガバナーと藤岡学友会代表幹事より目録を贈呈しました。最後になりましたが、このコンサートを開催するにあたり、当R.I.2650地区の多くのロータリアンのご寄付に心より感謝申し上げます。



## クラブだより



### 「びわこ地球市民の森」植樹 1492本の成果を楽しみに

幹事 白井 勝好(大津RC)

4月13日(土)、滋賀県下18クラブが参加し、「びわこ地球市民の森」植樹を実施しました。「びわこ地球市民の森」植樹は、旧野洲川河川敷を100年かけて緑の再生しようと、滋賀県が県民と共に取り組み始めた壮大な事業です。大津RCの呼びかけにより県下18のクラブから参加申込みを得、大津、野洲、守山の三クラブで実行委員会を作りました。当日は70名のロータリアンが、そして大津RC青少年委員会事業として15名の子供たちも参加し、1492本の苗木を植樹することができました。国松知事も植樹に加わっていただき、県下18ものRCの参加をいただいて大変うれしいとのこと挨拶をされました。

植樹の前には、これから植える苗木が、どのような森をつくるのかについて説明を受けました。クヌギ・コナラ・コブシ・ヤマザクラの落葉樹が明るい森を、アラカシ・スダジイ・ヤブツバキの常緑樹が緑濃い森をつくることでした。

苗木はやさしく扱う。深く植えない。植えた後は苗木の周囲を押さえて土となじませる等、植え方の注意事項を聞いた後、いよいよ植樹開始です。50センチくらいのひよろ長い苗木を、元気に育てたいと願いを込めて、一本一本ていねいに植えました。約30分で植樹は完了。短い時間でしたが、楽しくさわやかな体験ができました。5年、10年、20年と、苗木の成長を楽しみに見守っていききたいと思います。



## 良き相談相手としてのカウンセラー 米山奨学生オリエンテーション・カウンセラー研修会

地区米山奨学委員会 委員長 大島 正光(高島RC)

5月17日(金) ホテルグランピア京都に於て、岡村吾郎ガバナーエレクト、坂部慶夫米山諮問委員、大学指導教官、新規米山奨学生、カウンセラー、地区米山奨学委員等約80名が出席。岡村ガバナーエレクトより激励の挨拶、坂部諮問委員による米山奨学会の意義と説明と、大島委員長から具体的なオリエンテーションがあり、奨学生は熱心に研修され、意義ある一日が終了しました。出身国名、中国15名、韓国6名、台湾5名、ロシア2名、インドネシア1名、ネパール1名、モロッコ1名、ベトナム1名の計32名です。

第1回米山奨学生カウンセラー研修会が5月27日(月) 京都商工会議所に於て、宮崎幸雄米山記念奨学会常務理事、坂部諮問委員、大島正光奨学委員長、地区委員4名、カウンセラー25名をもって、

1. 米山奨学生の優秀性について
2. 日本に於ける奨学事情
3. 米山奨学事業に於けるカウンセラーの重要性、カウンセラーと奨学生との関係などの研修があり、質問等活発な意見交換がかわされ、今後の奨学生に対する良き相談相手として期待されることを望みます。

## 未来への発信

ロータリーのモットーを  
理解するために

福井あじさいRC 内田 光紀

予期せぬご依頼を賜わり、幾分か戸惑っております。「ロータリーにたいする思い」についてとのことですが、当年とって30歳と若輩者の私には、正直に申し上げまして、このような素晴らしい機会を頂いて文章を披露するほど、ロータリーにたいする自分の思いが明確になっているわけではありません。

今の私といえば、毎週の例会にできる限り出席し、殆んどが年上の、人生や経営の大先輩方のお話に耳を傾けながら食事を頂くというのが、専らとなっております。しかしながらそのような大先輩も、ロータリーについては、まだまだ理解ができない部分が多いようです。なぜなら私達あじさいRCは、今年3月に正式に認証され、産声を上げたばかりのクラブだからです。ですからこれを書くにあたって、改めて仮例会の時に頂いた「ロータリーのいろは」を片手に、私自身の「ロータリーにたいする思い」を少しでも明確にしたいと思いながら筆を進めています。

そんな中、次の一節が目にとまりました。それは、国際ロータリーの最初のモットーである「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」というものです。ちょっと聞くと奉仕に見返りを求めているようにも思えますが、そうでは無いようです。「いろは」には、利己的でないボランティアの奉仕の哲学と説いていますが、私には何となく解るようで、まだ漠然としています。この意味を本当に理解し、実践できることを目指し、例会に出席し続けていきたいと思えます。

## HOPE (希望)



ガバナー事務所分室 榎本 容子

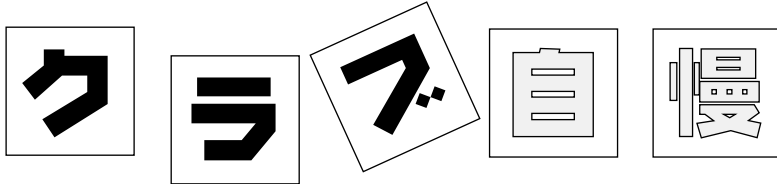
「強くなった」これが、青少年交換プログラムを経験した学生が口をそろえて言い、まわりも認める一番のことと思う。地区の国際青少年交換委員会の仕事を始めて4年半。我地区から海外へ行く高校生と、海外から我地区にやってくる高校生の姿を見るのが実に楽しく、感動しているうちにすっかりはまってしまった4年半だった。

15～18歳の若者が家族から遠く離れ、言葉もよくわからない異文化の地で、1年間過ごすのは並大抵のことではない。ところが、その困難を乗り越え、人の暖かさや善意といったものを体の芯から味わい、同時に自己教育、自分自身の内なる力と智恵を引き出し、実感することのできた彼らは、それ以降の人生を力強く、そして他者を思いやることのできる素敵な人生をつくっていくのだらうと思う。強さのなかから真の優しさは生まれてくる、と学生を見ていると個人的な体験からも実感する。

明るくなり、朗らかになり、視野の広がった学生たちと話していると、どうも閉塞的な状況にありそうな日本の社会や教育に風穴を通し、爽やかな風を吹き込んでくれる貴重な存在であるとあらためて思う。ダイナミックな人間へと、ダイナミックに成長する若者たち。彼らを支援するロータリーに、尊敬と感謝の気持ちでいっぱいだ。







洛北ダンディーズ 軽音楽同好会

若林 靖博 (京都洛北RC)

私どものバンドの一番の自慢は何と言っても、京都RC75周年記念懇親会に出演させていただき、更にご来賓のRI会長エレクトが突然に「思い出のサンフランシスコ」を唄うと言われ、伴奏をさせていただいたことです。

思い起こせば今から8年前、ハワイアンを演奏しておられた会員が、趣味としてバンドを作ってみてはとの提案があり、楽器演奏の経験者を募りました。全くの素人も含め、決して一人前とは言えないメンバーが集まり、夏頃から練習が始まりました。大胆にもその年の「年忘れ家族会」に初出演、足は震え、唇は乾き、音はずれ、終わりが合わなかったりと散々なデビューでしたが、かえってその初々しさが受け一躍脚光を浴びました。

ジャズ、オールディーズ、カントリー、ハワイアン等と、今でも毎週月曜日の夜8時から真面目に練習を続けており、レパートリーも徐々に増えていきました。独自に定期演奏会も続けておりましたが、京都新聞に写真入りで「おじさんバンド」として大きく取りあげていただいたために、あちこちから出演依頼がありました。盲導犬チャリティコンサート、特別養護老人ホーム慰問、鴨川納涼ステージ等の奉仕活動や、京都モーニングRCのチャーターナイトにも出演させていただきました。そしてとうとう病膏肓と言いますか、生意気にもCDを製作し、CD発売記念祝賀演奏会まで盛大に行い楽しませていただきました。21世紀もアマチュアのおっさんバンドとして、練習を続け活躍の場を広げていきたいと思っております。ご声援下さい。



我がクラブの国際交流

川越 清司 (高島RC)

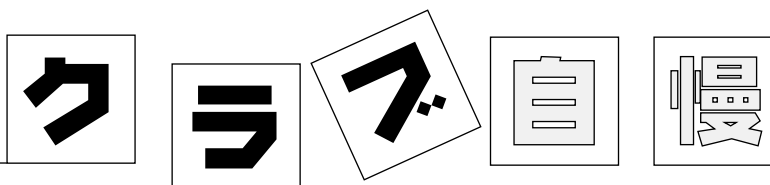
トンネルを抜けるとまたトンネル、自分の仕事のへたくそなことを棚に上げ、不況のせいにしてしまう毎日、不況で会社が駄目になるのなら日本中の会社が倒産する。そうならないのはやはり自分の仕事に間違いがあるのかと思う。

そんな日々に、毎水曜日の例会参加メンバーの顔を見るとホッとします。メンバー同士気を使って言葉を交わすが、案外すき放題に会話ができること。とにかく例会はホッとする場所であります。我が高島RCは今年で25周年を迎えることができました。これも先人の徳の結実だと感謝します。この25周年記念最大の事業は、地域の少年サッカーの開催後援、十数年前より姉妹クラブである釜山光復RCとの派遣学生ホームステイの受け入れで築き上げた信頼のもと、小会長がワールドカップ開催の年に親善をより一層深める時だとの肝いりで、少年サッカーチームを結成し(主に小学5年生が中心)選手25名、指導員及び保護者15名、ロータリアンは会長を筆頭に11名、4月2日より3泊4日で釜山へ向かいました。初めての飛行機、歓迎式典、ホームステイ、ワールドカップスタジアム見学、親善試合、子供たちにとっては人生最大の感激、記憶に止まっていてくれると信じます。

先日の例会に職業情報委員会よりの配布物を紹介します。

「事業に失敗するコツ12か条」 1 旧来の方法が一番良いと信じていること 2 もちはもち屋だとうぬぼれていること 3 ひまがないといって本を読まぬこと 4 どうにかなると考えていること 5 稼ぎに追いつく貧乏なしとむやみやたらと骨を折ること 6 良いものはだまっても売れると安心してのこと 7 高い給料は出せないといって人を安く使うこと 8 支払は延ばす方が得だとなるべく支払わぬ工夫をすること 9 機械は高いと言って人を使うこと 10 お客は我がまま過ぎると考えること 11 商売人は人情は禁物だと考えること 12 そんなことはできないと改善せぬこと





## におの声

大野 彦一（びわ湖八幡RC）

びわ湖八幡コーラス同好会「におの声」を紹介申し上げます。ある時、ロータリーの友人との会話の中で、コーラス同好会の名前はと問われたので「鳥の声」と答えたところ、田んぼの二オかと問い返されたことがあります。かり取ったワラ束を田んぼの片隅に屋根形に積み上げた物を、この地ではそのように呼びますが、どうやら友人は田んぼの二オの影から聞えてくる農村合唱団をイメージしたようです。当らずと謂えども遠からずと申せましょう。

本来は琵琶湖が古く「鳩の湖」と呼ばれ、琵琶湖のどこにでも見られる鳩、つまり県の鳥“かいつぶり”から会員によって名づけられました。

コーラスの実力は未熟の域を越えられませんが、厚顔恥じることなく全国ロータリー合唱祭にはこれまで3度、琵琶湖ホール、函館文化芸術会館、別府ビーコンプラザホールと、世界の一流アーティストが演じた同じステージに立たせていただくことができました。合唱力とは何等比例はいたしませんでしたが、気分は大いに比例するものです。

目標を定めて会員婦人と共に、混声合唱の練習を月に2回程行っておりますが、気の長い先生の指導のおかげで練習にも形がつき、コーラスで体力、呼吸法のトレーニング効果の他、会員婦人にも、家族会以外で他の会員と親睦が図れている効果有りと感じております。2650地区内のコーラスチームは、7～8チーム有ると思いますが、隠れた逸材にお出ましのいただき、輪の中に加わってくださればと思っております。



## ホームページ・メーリングリストの紹介

幡歩 美和（京都洛南RC）

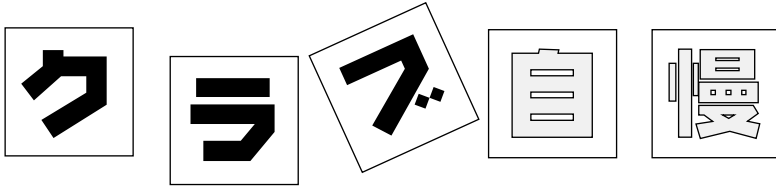
2001から2002年度年度始めの事業として、我がクラブのホームページを立ち上げることになり、広報・会報委員会を中心に、メニューの分析検討に入りましたが、アクセスしていただくユーザーによりメニューの内容が変わってくるという問題に苦慮することになりました。

ホームページの本来の目的は、クラブ内外へのPR・告知・報告が基本であろうということから、少しでも多くの人に知ってもらい、クラブ内での活動に役立たせることを概念としたメニューを作成することに至り、下記の内容を柱としたホームページを立ち上げる運びとなりました。

- 1) 京都洛南RCのコンセプト  
R.I.テーマ / 地区の方針 / 京都洛南RC会長強化事項 / 例会場・例会日時の紹介 / 次回のスピーカーの紹介
- 2) 週ごとの例会スピーチの紹介 食事のメニュー案内
- 3) 会長の挨拶
- 4) 役員構成
- 5) 事務局の案内
- 6) 年間行事スケジュールの案内  
月間スケジュールの案内
- 7) クラブ同好会の案内
- 8) クラブ活動内容の紹介

ホームページ完了と同時にクラブ内でITに関心を持つ会員が増え、メーリングリストのネットワークづくりが行われ、会員内でのコミュニケーションに大いに役立ち、クラブ内での活性化につながり、新たにIT同好会が生まれ、今後、新しいITを中心としたクラブ活動が行われていくことに、当クラブとしては大いに期待しております。





## 『青少年交換』に挑戦

松居 正和(京都西山RC)

我がクラブでは昨年10月、琵琶湖で青少年のヨット体験乗船の奉仕活動を行った。参加した生徒や先生は、初めてヨットに乗ると興奮。青空の下、そよ吹く風、穏やかな水の上で快走する艇に、気持ちが晴々した、嬉しかった、楽しかったの御礼状が全員から寄せられた。

今年は「青少年交換」活動に挑戦することになった。

現在中学3年の生徒を秋に募集、高校1年の夏から高校2年の夏まで1年間、世界各地のロータリアンの家庭にホームステイしてその国の高校に通わせてもらう制度である。

我がクラブからは女子生徒をアメリカのアラスカに送り出し、受入はデンマークからの男子生徒と決定した。受入生徒の通学する高校は、乙訓高校が受けましょうということになり、現在ホストファミリー4家庭をお願いするところである。

この活動に挑戦して初めてわかったことが沢山ある。

(1) ロータリーはこのような素晴らしい制度を持っている。特に2650地区は参加人員も多く、成果を上げ、その歴史は30年に及んでいる。

(2) これは国際奉仕の最もすぐれた活動で、長期(送り出しから帰国まで足掛3年)に亘り、クラブ全員で力を出さなければなし得ない活動である。

(3) 青少年活動としては、このような若い時に1年間外国の家庭で生活し、通学できることは人間形成の上で実り多く、個人や学校単位ではできない、ロータリーならではの活動である。

(4) 我が国の教育理念、家族、家庭のあり方を真剣に考えさせられた。

今、我がクラブは何としても、この青少年交換活動を成功させたいと熱意に燃えているところである。



## ~~~~~ お手紙が届きました ~~~~~

### 2005年までにポリオのない世界に

2002年4月30日

拝 啓

おめでとうございます。貴地区が最後の闘いキャンペーンを通して地区財団活動資金からポリオ・プラス基金に寄贈して下さった米貨10,000ドル乃至25,000ドルに対する、金賞のバナーです。貴地区からの寄贈に、心から感謝申し上げます。この身体の自由を利かなくする病との闘いで、私たちをゴールインさせてくれるのはこうした寄贈です。

私からも、国際ロータリーの最優先事項、ポリオ撲滅へのご献身に感謝申し上げます。私たちの新しいポリオ撲滅キャンペーン、「約束を守ろう：ポリオをなくそう」でご協力できますのを楽しみにしております。この活動を通じて、紛れもなく2005年までに、ポリオのない世界という目標を達成することになります。

敬 具

ルイス・ヴィセンテ・ジアイ  
ロータリー財団管理委員会、委員長



金賞のバナー